明治四十二年十一月十五日發行（毎月一回十五日發行）
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

明治の女子

第六巻

第十號

要目

健かなれ潔かれ
耶蘇の倫理
外遊所見
女子教育と信念
明治の女子の愛
ピリピ書解釋
祈禱に就きて
メリイ・リイド（下）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子 第六卷 第十號

目次

◎社説 健かなれ潔かれ

◎講壇 耶蘇の倫理 カメル、モルガン

◎説苑
外遊所見 丹羽清次郎
女子教育と信念 高島平三郎
明治の女子の愛 田川大吉郎

◎聖書の研究 ピリピ書解釋 柏井園

◎靜思の友 祈禱に就きて

◎文苑 近し 江村秋子

◎史傳 望なき人の友メリイ、リイド(下) 白井胤祿

◎女子青年界

日本基督教女子青年會本部の移轉

日本基督教女子青年會本部は東京市麴町區三番町四十一番地に移轉す

部數	定價(郵稅共)	海外
一部	金五錢	金九錢
十二部	金五拾錢	金壹圓

明治四十二年十一月十四日印刷
明治四十二年十一月十五日發行

東京市麴町區三番町四十一番地
發行兼編輯人 エー、シー、マクドナルド

東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷人 島連太郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷所 三秀舍

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

健かなれ、潔かれ

父母として我が子が斯くあれかし斯くなれかしと望む所は數限りなかるべし。然れども最も單純にして穩當なる望を云はば二つの箇條あるべし。健なれと云ふことと潔かれと云ふことこれなり。

神は我等の父なり。我等は神の子なり。神が子なる我等に望みたまふ所亦此にあるにあらざるか。

我は新約聖書の希伯來書第十二章を讀むうち此の思想を得たり。此の章に於て主として神の子なる人類を訓練することを說けり。信仰ある人は人生の艱難苦勞をば天父の訓練矯正の鞭と見るなり。曰く

主その愛する者を懲しめ又すべて其の納くる所の子を鞭てり。なんぢら若し此の懲治を忍ばゞ神は子の如く我等を待ひ給ふなり。誰か父のこらしめざる子あらんや。すべての人の受くる懲治もし汝等に無くばそは私子にして實子にあらず。又我等の肉體の父は我等を懲めし者なるに尙之を敬へり、まして靈魂の父に從ひて生を得ざるべけんや。

然して著者は此の訓練の歸する所を擧げて、一は健にすることにありとす。曰く

此の故に汝等疲れたる手弱りたる膝を健にせよ。

又一は潔きことにありとす、曰く、

靈の父は我等に益を得しめて其の聖潔に與らせんがため懲しむることを爲す。

自ら潔からんことを務めよ、人もし潔からずば主に見ゆることを得ざるなり。

＊　＊　＊　＊

先づ問はん、健なる靈魂とは何ぞや。健なると強きとは必ずしも同一ならず。強く且つ健なるに越すことあらざれども、角力取の如く腕力強き人にして存外健ならざるものもあるなり、又さまで頑丈ならぬ身體にても能く遣ひ入れて久しく用に耐ふるものもあり。心靈に於て健なると云ふことも亦之に同じく弱きやうにて健なる人、強きやうにて不健康なる人もあるなり。

健なる靈魂の特徵二三を擧ぐれば、第一はこれなり、手の指一本にても病處なれば始終之を覺知す。之に反して病氣なき時は手を使ひ指を使ひて何事か爲すことに專にして手や指のこと、つまり身體の事を氣にかけざるなり。靈魂のことも亦然り。つねに己れの苦痛、己の不平、己の慾望など意識せるものは不健全なる靈魂の症狀なり。健全なる靈魂は自己を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

忘れて自己の目的理想事業のうちに小さき自己を沒し了る。婦人子を育つる裡に己を忘れ、勇士戰場に於て身を忘れ危を冒して進む。その間に大なる幸福あり。

健全なる靈魂の第二の特徵は彈力なり。不義なる事を見て怒り、卑しき話を聞きて顔を赧らめ、人情の輕薄なるを見て歎息す、此の心即ち精神の彈力なり。苦しき境遇に處して之が爲めに壓迫し了られざる勇氣これ亦精神の彈力なり。流動體なる水の壓力能く非常なる重量の物を押し擧ぐるにあらずや。弱き婦人の精神にも是の如き彈力あり得べく、又あらざるべからず。

健全なる靈魂の第三の特徵は快活なり、歡喜なり、浮き上がる力なり。

我等の主耶蘇基督は至て健康なる身體を有したまひしと見ゆ。三年間の繁劇極まる活動に處して之に堪へ、病氣に罹られしことありしと見えず。彼の心靈は亦實に健なる心靈なりき。彼は十二歳の時エルサレムの宮の莊嚴聖美なるに心を引かれ一度歸路に就きしも復た我を忘れてエルサレムに回り行けり、彼は己を忘れ得る力を具へたるなり。其の後傳道を始めたまひし頃エルサレムの宮の汚されたるを見るや、憤怒の念抑ふる能はず、繩の鞭をつくりて商人輩を逐ひ拂へり。非常に高く深き自意識を胸の中に有しながら、己れを忘れて神の爲人の爲をのみ思ひたまへり　彼は世の罪惡に對して強烈なる彈力を有したまへり。パリサイ人が惡き行をなして捕はれたる婦人を種として彼を阱に陷れんとせし時、彼は人情の淺ましき顔を見るも不愉快なりしと見え俯きて地に物書けりとあり。此の態度は雷霆の如き怒りにまして敵人の良心を刺たり。此の如く道念嚴格にして罪に對する反撥心強かりしに係はらず、耶蘇は竭きざる歡喜の泉を胸にたたへ、言ひ難き平和を味ひたまへり。

耶蘇は健なる神の子にて在し給へり、我等も亦神の喜びたまふ健なる子にてあらしめよ。

* * * *

上に言へる如き意味にて健なれば潔きてふことは自然に其の中に含まれたり。然れども潔しと云ふことは主として神に對する關係に於て考へざるべからず。

希伯來書の著者曰く

恐くは苦き根生へ出てて汝等を惱まさん、且つ多くの人之に因りて汚るべし。恐らはエサウの如く淫を行ひ妄なる事をなすものあらん。彼は一飯の爲に長子の業を賣れり。其の後祝ふ所の福を嗣がんことを求めたれども終に棄てられ涙を流して志を挽回さんとせしが得ること能はざりしは汝等の知る所なり。

これ實に潔からざる靈魂の悲劇を語れる文章なり。然して此は遠き昔の事にはあらず。是の如き悲劇は我等の周圍に於て之を見、又新聞紙に於て屢々暴露せらるるにあらずや。我等をして基督の如く潔からしめよ。基督は神の業に獻身することによりて益々潔きものとなれり。人は潔きものに身を獻して初めて潔くなり得るなり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

不健全不潔なる空氣の滿てる此の社會に於て願くば我等をして飽くまでも健ならしめよ、潔からしめよ。

講壇

耶蘇の倫理

カメル、モルガン博士

カメル、モルガン博士は英國倫敦ウエストミンスタア、チヤペルの牧師にして、會衆敎會派中錚々たる少壯牧師なり。此に揭ぐるは九月十二日倫敦キングス、ウエイ、ハウス敎會に於ける同氏の說敎の大意なり。

『此の故に汝等天の父の完全が如く完全くなるべし』。(馬太四〇四八)

『人の子は失ひしものを尋ねて、之を救はんが爲めに來れり。』(路加四十二)

此等の句は明かに耶蘇が最も極言せられたものである。且つ一寸之を見ると其の間に何等の聯絡もないやうである。然かし前者の規矩によりて己れ自らを量つたときに、始めて後者の意味を了解することが出來る。

余は斯く廣く距つて居る此の二つの本文を取つて之を一つにする。何となれば此に我等人類に對する特別なる福音の結晶を見ることが出來るからである。其の第一の本文に於ては最も簡潔な、又最も驚くべき形式に於て耶蘇の倫理を見、第二に於て諸君が如何にして其の倫理に從ひ得るかを敎へてある。

一世紀ほど以前大いなる物理學者の事業は發展の途上にあつた。其時代の學者の研究により實驗室に閉ぢ籠つて居た一人の口から『適者生存』といふ語が出て來た。此の科學者は自然界のすべてに貫通する一つの法則を發見し、此の語を以て之を說明したのである。然かし我等は此の法則が只に自然界に於けるのみならず、道德界にも心靈界にも作用きつゝあることを見るのである。今日我等は皆な色々の形式に於て適者生存の理を信ずるものである。其れは儼かなる法則である。其れは只だ適當なる人のみが物質界に生存し得ることを意味する。恐ろしき法則である。道德界其の他すべての世界に於ても生存すべき人は、只だ之に適したものでなければならぬ。世界歷史中、心靈界に於て此眞理を代表するものは耶蘇基督である。彼ほど此の眞理を現はして居るものはない。然かし基督信者の中にも此の語を解して、『勿論我等の主は斯る意味で云はれたのではない。我等は天の父が完全なる如く完全なれと云はれたのではあるまい。其れは不可能のことである』と論ずるものもある。我が兄弟よ、是れば余が知るところの他の恐るべき批評よりも更に遙かに恐るべき批評である。基督の語を聞きて、之を我等の失敗たり、愚かなことをしたりする有樣に適合せしめやうと低く引き下げた所の批評である。假令我等は之に從ふ力がないにしても少なくとも之を理想とす

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

べき」はないか。

然かし兄弟よ斯る批評の通りであるならば、新約聖書の福音はなくなつて了う。我等が道德界に適者生存なる語を適用し、殊に基督は心靈界の適者たることを信ずることてあるが、其れに對して我等はまた『不適者の救』てふ語を使用することが出來るのてある。

余は諸君が耶蘇の此等の語につき其の調子と其の分量とを瞑想せられんことを望む。是れは現代に於ても何時の世に於ても叫ばるべき基督の二樣の言てある。彼の要求は他の敎師が人に向つて與ふるよりも更に儼かなるものである。然かし其の要求に應じて從ふものに對する彼の準備は絕對的に十分てある。

『汝等完全かるべし』とは凡ての人類に向つて云はるゝ耶蘇の言てある。されど若し我等が此の標準に從つて却つて失望に滿さるゝことがあり、手を脣に置いて『我等は汚れたり』と呼ぶことがあれば、耶蘇は更に他の言を與へられる。曰く『人の子は失ひしものを尋ねて之を救はんが爲めに來れり』と。

『汝等完全かるべし』此の理想は耶蘇の敎訓によりて人に提供せられ、其の實例によりて立論せられ、遂に其の復活の事實によりて確定せられた。耶蘇が其の敎へに於て如何に先づ品性に重きを置かれたかを思へ。『福なり』と云はれた敎訓を考へても解る。諸君の生活は其の敎訓を十分徹底して居られるか。耶蘇は何者をか有するとか、何事をか爲すとか云ふ理由を以て人を祝福せられない。活動は耶蘇の理想に從へば最上のものてはない。彼は決して有つとか、爲すとか云ふことを祝福されない。只だ其の存在する有樣に對して祝福された。耶蘇の經濟に於て勘定せらるゝものは品性てある。極端と說明すれば『汝等は罪を犯すなと云はれたことを聞いた。然かし汝等が罪を犯さうと心に欲つても罪を犯したと同じことてある』と云ふのが耶蘇の敎訓てある。此所に耶蘇の倫理と他の倫理との相違がある。人間の道德は表面的のことを禁ずる。耶蘇の道德は隱れたること、慾望をも禁ずるのてある。山上の垂訓は探り懲し且つ燒く。我が獨り居るところにまて追跡する。然うして我が生存の中心を突いて、潔かれといひ、又『此の故に汝等天の父の完全が如く完全かるべし』と要求する。

而して、耶蘇の宣言に據れば品性が最も尊きことを說くのみならず、感化力のある品性てなくては眞正の品性てないことを我等に示して居る。余は不注意に感化力なる語を用ひはしませぬ。『福なり』と云はれた後には、直ちに『汝等は地の鹽なり』『汝等は世の光なり』との語がある。神の國に於て尊重せらるゝ品性は、鹽の如く腐敗と相接觸し、善の力を以て腐敗の勢ひを逞うせざるやうにする品性てある。是れが耶蘇の理想てある。且つ鹽ばかりてはない、光てある。廣く四方を照らす光てある。山の上に建てられた城の如くに、諸君の家庭を照らす。燭臺の上に置いて家にある凡てのものを照らす。耶蘇は其の敎訓に於て、また其の生活に於て絕對的

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に完全である。其の生活は其の敎訓と相待て完全であつたのである。彼れは眞理を宣ぶと云はず、『我は眞理なり』と云はれた。其の言も、行も、其の復活の神秘も、すべて、『其故に汝等神の完全が如く完全かるべし』との彼の要求を高調して繰り返すのである。

余は之を甚だ強く高調せんと欲する。余は今日耶蘇基督の福音は神が過失多き人を受け容れ、其の過失を赦し、其の儘にて神と相交ることを許さるゝことを敎へんが爲めに基督が或る方法を以て世に來たとの思想を有するものがあると信ずる。基督の心を故らに作るほど間違つたことはない。彼は人の類が絶對的に完全ならんことを望まれる。最後には彼は人の失敗を計さぬてあらう。其の言の儼かなると、其の莊重なる警告とに注意せよ。彼は『我に來れ』と云はれたが、また『右の手汝を罪に陷さば之を斷りて棄てよ』と云はれた。躓きや罪に陷ることや、罪其のものに對して假借するところはない。福音書のうちには餘りに諸君の心を穿ち、燒き、燃やすが故に、基督の言はれたことでないことを望まずには讀み能はぬところがある。『汝等完全かるべし』とは耶蘇の大いなる言である。彼は決して過失多き生涯を許容さない。

例令從ふものは其の前に行くものと違ふことを許してはならぬけれど、只だ其れだけてはないことを又神に感謝せねばならぬ。何人も基督の理想を完成することが出來ぬとて失望してはならぬ。『初めは苗、次に穗出て、かくて穗に穀を結ぶなり』とあるは、凡てのことに適用せらるゝ如く基督信者の品性にも當て篏まる。只だ我等をして目標を常に見て居らねばならぬことゝ主が完全を望まれた如く我等も之を望まねばならぬことゝを記憶せしめよ。

若し只だ耶蘇の倫理を知つて居るだけならば、余は耶蘇の模範を見て嘆美するてあらう。禮拜し、また畏れを以て之に從はざるを得ないやうに思ふてあらう。然かし其の倫理は余を助けない、此理想は幻想を事實となし得る力を余に與へない。余は更に確實なる或るものを要する。自ら適者たりまた完全なる耶蘇は一方に於て其の使命の意味を一つの大いなる言によりて言ひ現はして居る。曰く『人の子は失へるものを尋ねて之を救はんが爲めに來れり』と。此の適者生存の法則、幸なる法則、惠み多き法則、喜ばしき法則が實行せられ、人は其の天地から排斥し去られたときに、人の子は之を尋ねて救はんが爲めに來られた。

余は或るとき舊約書の或る形が新約書よりも一層恩惠深く且つ美しいやうに想像することがある。陶工が勞作して居る有樣は美しいに違ひない。然かし一體何が最も美しい形てあらう。勞作して居る陶工が最も美しいとは云へぬ。大切なるものではあるが、神の主權の啓示ではない。器が若し陶工の手のうちで毀れたならば、彼はまた之を以て他の器を造るてあらう。是れが實に最も美しいところてあらう。毀れた器を役に立たないまゝて打ち遣つて置くことはない。必ず之を再び造り替へる。人の子の來られた目的も、碎けた人間を其の儘神の國に入れる爲めてはない。再び之を造り替へる爲め

である。彼は『失ひしものを尋ねて之を救はん』が爲めに來られたのである。

此の理想の規矩を以て我等自身を量らしめよ。我等は敢へて之を爲すであらうか。耶蘇が我等を量られるときに我等は如何にするであらうか。此の聖所に於て此の理想によりて量らるるとき失敗つたとの意識を有するものがあるであらう。斯の如きものに取りて第二の本文は大いなる福音の音樂である。曰く『人の子は失ひしものを尋ねて之を救はんが爲めなり』と。我等は此の光明に照らされ且つ耻ぢて居るものである。我等は耶蘇の愛に一任し、再び造り替へて貰ひ、かくて後父ある神の榮光の前まで光のうちを歩み行くことが出來るであらう。

説苑

外遊所見

（談話筆記）

丹羽淸次郎

去ぬる夏の頃英國オックスフォルドに開かれた萬國學生大會、獨逸バアメンに開かれた萬國基督敎青年大會、其の他瑞典學生青年會大會などに日本の學生青年會同盟を代表して臨席せられた丹羽淸次郎氏は、去月三十日を以て歸朝せられた。此等の大會の模樣及び青年の氣風などに就きて氏の談られた所を左に錄す。

▲傳道の大抱負　オックスフォルドに於ける學生青年會同盟大會　同大會は先年日本に開かれたものとは餘程趣向が異つて居た。日本に於てはデモンストレエションの意味もあつたから、傳道的に萬事が仕組まれたが、オックスフォルドに於ては事情も異ふし、外部に向つて運動するやうなことはなく、自然に精神的實驗を積む方に注意せられたことである。それで人數も制限せられて代表者は男女二百五十人此等によつて代表せられた學生青年會同盟の數は二十六であつた。然かし此の會合を以て學生青年會同盟の新氣運を開かんとする勢ひが見えた。從來外國傳道と云へば先づ東洋若くは亞弗利加と云ふ有樣であつたが、此度の會によりて傳道の範圍が非常に擴められた。即ち露西亞のグリシャ敎のもとにある青年の爲め、或は土耳古の回敎國、其の外、以太利、葡萄牙、西班牙等の舊敎徒に眞正の光明を照らさんとする意氣込みがあつた。一言にして云へば世界的傳道を以て任ずる大抱負を懷くに至つたのである。

▲信仰の旗印　斯る大抱負の根底となるべき信仰は、過去十年間の經驗によつて、益々基督をLord and Master 神及び主と崇め、其の旗印の下に努力することによりて迷信を破り、種々の罪惡の下にある青年を救ふことが出來、基督敎的の高い品性を養ふことが出來ることを確めたことである。是れは只だ代表者の重なるものによりて主張せらるるのみならず、新しく同盟に加はつた露國の學生青年會の代表者、以太利、土耳古等の代表者等によりても說かれ、只だ神學的に基督の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

神性を說くにあらず、實際に之を主とし神として中心より之に事ふることによりて始めて宗敎上の力の得らるゝことを唱道せられた。

▲**執り成しの祈り**　隨つて大會中最も重んぜられたことは、我等が「汝ら萬國に道を傳へよ」との耶蘇の命を奉じ、力を入れて人類社會の爲めに執り成しの祈りを捧ぐることてあつた。執り成しの祈りほど大切なるものはない。露國が近々五年間に門戶開放主義を執り、是れまで公けの席で宗敎上の演說をすることも出來なかつた新敎徒がモスカウ、セントピイタアスボルグ等の劇場に於て眞摯なる福音を宣傳しても少しも妨げがなくなつた。土耳古、西班牙、葡萄牙等に於ても驚くほど基督の眞正の光を受くる爲めに準備が出來て居る。有力なるものが行けば多くの人が之を聞くに至つた。是れらは實に執り成しの祈りによりて越ゆべからずと見えた山も海に移されたやうな靈梅である。

▲**社會問題**　又新しき傾向とも見るべきは、社會の有ゆる問題につき學生時代より靑年に敎へるのみならず、十分研究して實際上の解釋をなさしむるの必要を感じ、殊にオックスフオルド、及びケンブリッヂの代表者は此に注意して話したことである。萬國の學生靑年會は此の方面に注意して之が解釋に盡力することが大切てあると思ふ。

▲**日本に對する態度**　一般の態度が日本に對して餘程變つた。日本は何の點から云つても進歩して、凡ての事自ら立つて事を爲すものと見られて居た。モット氏の報告中にも日本の近來の進歩を語り、自ら爲すあるに足ることを述べた。大會が東洋傳道といふときに注意するは支那印度てあつた。支那は近來の覺醒から注意を惹き、今日は傳道の機逸すべからずと考へられて居る。故に學生の有力なるものゝうちにて日本に行くと云ふものはなく、何れも支那に支那にと云つて居た。支那に次いて注意を惹いたところは印度てある。印度と英國の關係は甚穩ならず、丁度大會の開かるゝ前にも印度の大守が倫敦に於て印度人の爲めに殺されたやうな次第て、印度が精神上の大いなる發展を圖らねばならぬことは來會者の頭惱に深く刻み付けられたところてある。それて同地の傳道に注意を惹いたのであらう。

▲**次の大會開會地**　今年の大會は實にしんみりした集會てあつた。數百年來宗敎上の中心となりオックスフォルドの空氣、其の思ひ出多き歷史、建物、天然が來會者の心に宗敎上深い印象を與へたことてある。さて次の大會の開會地については、印度からの招きもあり、瑞西からも招かれたが、遂に土耳古のコンスタンチノオブルに於て開き、回敎の中心を突くことゝなつた。然かし土耳古の政變は豫め何うなるか解らぬから、同地に開くことが出來なかつたならば、印度若くは瑞西に於て開くことゝなつた。

▲**各國代表者の特色**　大會も有益てあつたが、更らに有益てあつたのは、其の前三日間、各國の特別なる代表者が大會の準備の爲めに會合し、大會の開會順序、會計、運動等につきて協議したことてある。委員會に於いて初めて基督

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

敎的精神の盛んなる度合を窺ふことが出來た。委員會に於いて勢力のあるのは英米獨佛等の代表者て、其の他は此の委員の議するところに從ふ有様であつた。就中勢力あるは英米の代表者て、英國のは何所までも順序を追ひ、歷史を重んじ、着々堅固に進むの風がある。米國のは凡てのこと大計畫で突進する。其の上金力の餘裕もあり、且つ青年會の數も多いので勢力が最も強かつた。獨逸の代表者は議論が盛んて直ぐに解ることとても條理正しく議論する。佛國の代表者は何うも議論が感情的に走る。氣に入らぬときには其の場を去ることもある。委員會では各國の民情の異なつたところが遠慮なく現はれるが、其れとともに基督敎の精神の盛んな度合も知れる。即ち基督の爲めにすると云ふ精神が強くなければ、衝突をもしかねまじきとが少なくなかつたのである。殊に委員會の難しい議論のうちにあつて謙遜で寬容で、何所までも神の心を爲す精神を以てし、毫も私のないといふことの現はれたのはモット氏てある。彼の語るときには、人の爲め、基督の爲めにする赤誠が現はれて居るから、凡てのものが傾聽する。彼が總幹事として尊敬を受け、諸般の計畫を一任せられるのは一つには其の勉强にある。大會中も睡眠の時間を割いて人々と交り、演說の準備をなし、神に祈り、時の許す限り凡ての集會に出席した。彼の出席しないのは他に大切な事があつた爲めて、何れも其の怠慢を疑ふやうなものはなかつた。

獨逸バアメンに開かれし萬國基督敎青年大會

▲學說よりも實行　余はオックスフォルドの大會を了りて、獨逸バアメンのエルバフエルドに開かれたる萬國青年會大會に出席した。同大會は重に萬國の青年會の活動を示す御祭りの如き趣きがあつた。來會者も二千五百名を超ゆるに至つた會場は市の議事堂を借りて、倘ほ足らざるところは敎會を用いて開いた。獨逸に開かれたにも拘らず、精神が燃えて居たところはオックスフォルドの大會に異ならなかつた。即ち學說てなく實行を重んじ、基督を精神上の主と仰ぎ、神と崇め、世界に神の道を傳ふることが終始一貫せる精神てあつた。是れ一はバアメンの町が非常に宗敎的であつた爲め獨逸人の動もすれば議論に傾き空理に走るやうなことを制して宗敎的に成功した所以てあらう。

▲日本の代表者　日本の代表者として此の大會に出席したものは余の外に、獨逸に在學中なる山本忠興君てあつた。而して先きにオックスフォルドの大會に出席した代表者は余の外に、英國留學中の內ケ崎作三郎君と宛かも英國に來遊せられた三谷民子女史とてあつた。

瑞典學生青年會大會

▲學生に同情深き一紳士　前述の兩大會に先つて余は瑞典の學生青年會大會に招かれて出席した。同會の開かれたところは、ストックフォルドの西ヴアッラル湖畔風光の最も好いところてあつた。其の小さい町の殆んど實際的の支配者とも云ふべきものは一人の基督敎紳士てあつて其の名をタム氏と云ふ。蘇國にて高等の敎育を受け、代々の名門てある。其の經

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

營しつゝある色々の會社の職工は二千三百人に及ぶ。故にタム氏は此等の職工の爲めに學校を建て、また教會をも建てゝ居る。而して瑞典學生青年會は毎年タム氏の好意に由り其の建てた學校及び教會を使用して大會を開くことになつて居る。今年は二百五十名の男女が來會した。學生のうちには獨逸の新神學などの研究も盛んに行はれ大會の教授中にもニッチエ、ヘッケルなどを主張するものもある。而かも代表者として盡力した學生は大抵福音的の信仰を有するもので大會に來て講義したものも同じ精神と學說とを有し、基督に忠誠を盡し、傳道の精神を鼓吹せんとして居つた。

▲音樂の天才　此の大會の特色とも云ふべきものは、彼の國が青年の有する天賦の音樂的技能を現はしたことである。集會中にも屢〻合唱するが、また集會の後にも會堂を出て丘上に於て三十分程合唱する。其の聲の美しく雄々しいので、講演は聞きに來ずとも合唱のみを聞きに來るものが多い。町の老幼男女皆な之を聞きに來る。余の同地に赴いたときは丁度夜は殆んど無く十時十一時になるも薄明かく、歌をうたつて居るものの顏も見えるので、随つて夜を樂しく過すことになつて居る。來會者の爲めにタム氏の宅で園遊會が催ほされた。其の主客の御馳走の爲め、學生は熱心な信仰を以て讚美歌を合唱しつゝ歩んで王宮とも云ふべき門を入り、二階に上り、殆んど家中に充滿した。さうして學生は更に調子を和して歌つたことである。また町の男女も來て學生を慰める爲めに歌を歌つたこともあつた。同大會は此點に於て實に一種の特色を有して居た。

▲内村君を知らぬか　余が其の會に臨んだとき「君は内村鑑三君を知らぬか」との問ひを受けたことが屢〻である。同氏の著書「如何にして我は基督者となりしや」は同國語に譯されて居る。其の外獨逸語に譯された「日本の代表的人物」も學生間に讀まれて居るのである。次きに問ひを受けたのは新島襄先生のことであつた。英語で書かれた同氏の傳記を讀んだ爲めであらう。其のとき余は日本には此外にも豪い人が少くないと答へたことである。

大英學生大會

▲學生の天幕生活　余はまた英國デボンシャイア州バスロオに開かれた大英學生大會にも臨んだ。同地はデボンシャイア公の領地にて小高い山があつて、鹿の群をなすところもある。秋の獵の爲めに養ふてある鶉の子が群をなして居るし、山羊や羊も飼つてある。見渡す限り青い草原である。精神的修養をなすには恰好の場所である。此の靜かなる天地の間に三十三の天幕を張つて、英蘭、愛蘭、蘇格蘭の學生が個々別々に其一つを占領して居る　天幕内には防水のしてある[illegible]紙の上に藁蒲團と毛布とを敷いて寢る。此の大會は無禮講で衣服も質素で靴も粗末なものである。千二百人の男女の學生[illegible]來會した。此の會合で感心した點は、學生の有力者が會を開いて居ることであつた。十日間修養するのであるが、之に出席した名士は倫敦の監督やカメル、モルガン氏などであつた。其の精神的の調子は愼重な態度で宗教的の理想を鼓吹し、健全なる宗

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

敎上の感化を及ぼして居る。此の會に於ても學生と社會との問題について論ぜられた。

▲英國學生の氣風　余は此の會合に於て英國の學生の氣風に觸れることが出來た。彼等は學生時代から紳士的修養を受けつゝある。彼等相互に遊んだり、語つたり、樂んだりするときは小供のやうであるが、一たび他人に對して話すときには愼み深く禮儀正しく決して紳士の態度を崩さない。毎朝起る時間より早く起るときには他人の安眠を害せぬやうに氣を付ける。消燈時間までは隨分騷ぐが、其の後は安眠を害せぬやうに他人の權利を重んじた。二千人以上も居るのであるが朝起きて面を洗ふときにも盥を奪ひ合ふやうなことはない。互に相讓つて秩序がある。彼等の使ふ言語は余が學んだ英語よりも上品で丁寧である。予は下手な上に粗末で禮儀を缺きはせぬかと心配して居た。此等を見ても益々英國人の紳士的氣風に感服せざるを得なかつたのである、また婦人に對する態度が米國とは餘程異つて居た。集會のときには日本の敎會の如く男女左右に別れる。余は一人の學生に向ひ何故に別れるかと問ふた。すると其の學生は笑つて『聖書にある如く羊と山羊とを別けるのです』と答へた。余は更に『然らば何れが羊か』と問ふたに答へ『勿論男子です』と云つた。之を見ても其の氣風を窺ふことが出來る。

尙ほ歐洲の青年女子に關する同氏の觀察は次號に紹介すべし。

女子敎育と信念　一〇

高島平三郎

（靑山女學院創立三十五年紀念講演會に於ける講演の筆記也未だ校閲を經ず）

今晩は本校創立三十五年紀念の爲め講演會を開き、余輩まて招待にあづかりて一場の講演を試むることを得るは余輩の衷心より愉快とする所である。余輩は前講演者及び後に控へて居らるゝ人の如く女子敎育の專門家ではない、が敎育には長らく從事して居る者であるから明治に於ける女子敎育の變遷に就ては聊か知る所がある。本校は初め米國の一宣敎師に依つて經營せられ家庭的の小學園であつたのであるが今日斯くの如き盛運に成ることが出來たのは敎育家として眞に余輩の愉快に思ふことである。

一體日本では、東洋は何處もそうであるが、女子の敎育が專門に研究せられたことは從來曾て無かつたのである。敎育は男子と雖も之を一般に受くべきものではなく、たゞ政治家たらんとする者のみが受くべきものとしてあつた。明治以來男子の敎育は廣く一般に行はるゝやうに成つて歐米の敎育が盛に輸入せられた。物の起りは何に限らず不分化の有樣から初まるのであつて日本に於ける女子敎育の初まりも矢張り男子の敎育から分化しない有樣から始まつたものである。最初の女學生は男子に依つて敎育せられ、偶々女敎師に依つて敎育せらるゝことがあつても其の女敎師は大抵男子の敎育を受けた人であつた。それであるから自然女學生に男子の氣風が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

流行するやうな時代があつた。例へば腕まくりをしたり或は漢語を使つて我散歩せんと欲す諸君以て如何となすと云ふ風であつた。此は實際の話であつて村井弦齋の小說等によく表れて居る。今から考ふれば可笑な事であるが二十年ばかり前には余輩も見聞したのであつて其の頃女學生は淑女でなく壯士でなく一種壯女とも云ふべきのであつた。

茲に於て女子學生の批難が盛に起つた。今の女子教育は男子でもなく女子でもない妖怪を作り出す、此は畢竟無闇に西洋流を採用したからであると云ふ批評が起つて、守舊主義とも云ふべき反動の敎育法が復活して來た。何でも小笠原流の禮式を敎へ茶道生花の稽古を奬勵せなければならぬと云ふので芥だらけの釜を出したり或は隱居して居る師匠を擔ぎ出すと云ふ風であつた此は第一期である。

之に次いて又之が反動として實用主義の敎育が興つた。たゞ小笠原流の禮式や茶道生花に精しくても日常の用事を辨ずることが出來ないでは敎育の功能がない。女子の職分は此の實用に在るのであるから裁縫其の他の手藝を專一に敎へなければならぬと云ふので或る所等では藥鑵に毛髮を附けて其れで種々なる髮の結ひ方の稽古をすると云ふ有樣であつた。

斯の如きは一時の現象であつて決して永く續くべきものでない。此の反動の爲めに女子敎育と云ふことを專門に硏究する人々が出來た。そして女子の敎育は男子の敎育より分化しなければならぬことが判つて來た。女子をして淑女にあらず壯士にあらず壯女若くは一種の妖怪に育て上げてはならぬ、それかと云つて小笠原流に凝り固まつたり實用一天張りの機械にするのも惡い。然らば女子敎育の目的方針は那邊に在るかと云へば其は人格の敎養に在りと云はねばならぬ。余輩は諸君が禮式を忽にし實用を蔑にせられんことを望むのではない。又決して學科に不精勵なれと勸むるのではない。學問技藝禮式作法皆な必要なることとであることは明かであるが人間として一番價値のあるのは人格である。人たる事である。男子は男子たることを措いて人たることが出來ないやうに女子は女子たることを措いて人たることは出來ない。此の女にして人たる人間を作るのが女子敎育の目的方針である。一言にして云へば女子の人格を發揮することとである。そこで此の人格を發揮するには信仰が必要である。眞に人を立派なものにならしむるものは此の信仰即ち信念であると云ふことが近世に至つて明瞭になつて來た。

此の學校は基督敎主義を以て女子を敎育するのであつて前に述べた日本に於ける女子敎育の風潮の外に立つて今日に至つたものである。勿論此の學校と雖も日本の天地に至る間は嚴格なる意味に於て全く一般風潮の外に立つて來たと云ふことは出來ないのであるが少くとも一貫したる主義の下に立つて居つたことは明瞭である。兎も角も其の主義其の信念を今日まで一貫して來たことは貴いこととである。此が爲に此の學校には一貫したる校風或は校格とも云ふべきものがあるやうになつた。將來女子敎育を益々隆盛になさんと欲するならば余輩が思ふ如き信念が必要であると信ずる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

信念とは何であるか。種々難かしい說明もあるであらふが、如何なる信念であつても其にはコンヴアーシヨン(Conversion)といふことが伴ふものである。之を發心と名くべきである。人は初めふわ〳〵として確固たる信念を有たない。物に觸るゝがまゝに感じ誘惑に逢ふ毎に誘はるゝ狀態である。然るに人生の或る期間に於て發心と云ふ事が人の心に起る。諸君は種々の經驗を有つて居らるゝことであらふ。實際先生達から聽くやうな神があるであらふか、朋友の誰彼は斯くの如き敎を勸めたが眞に信ずべきことであらふかと云ふが如き懷疑煩悶に沈んだこともあるであらう。此の懷疑煩悶を通り拔けて、之を信じ之に依つて進まねばならぬと云ふ決心を生ずるのが發心即ちコンヴアーシヨンである。この發心は男子に於ても必要なることであるが女子に於ては此の上もない大切なる事であつて之に依つて生涯の目當が確定するのである。信念といふのは此の發心に依つて決心した事を確く信じ念じて動かない事である。

一度發心しても漸々緩みが生じ怠りが勝つて來ては所詮何の効も無い。一旦發心したる以上は喜んで其の目的理想を追ひ求むる心掛けが無くてはならぬ。余輩は此の事を喜求と稱して居る。求めよ然らば與へられん、何處までも求めて止まない決心があるならば神は其の心を喜て理想の彼岸に達せしめ給ふのである。喜求の必要は啻に宗敎の上ばかりではない。日常生活に起る萬事萬端を處理するに於て或は義務職分を遂行するに於て此の理想を喜び求むる精神を以てするならば遂には其の理想と合體してワンネス Oneness 即ち一如と云ふ狀態に到達することが出來る。理想と一如の狀態になるのは取りも直さず救はるゝことである。理想の神は我が心中にあり、我と神とは一所にありと云ふ感じを有つことは非常に貴いことである、此は宗敎上のことであるが一如といふ事は宗敎上に限らない。今現在爲して居る仕事に精神を注ぎ其と一如となることが必要である。聖書を讀む、其の時聖書が自分か自分が聖書かと云ふやうに精神が鍛はれると遂に大なる働らきを爲し得るやうになるのである。

諸君が此の如き信念を以て其の理想と一如になるやうになるならば諸君は自分を卑しめないやうになる。我が肉體は是れ神の宮、心は神の宿り給ふ所であると思ふやうになる。自己を重ずることと高慢とは天地の差異がある。人は其の理想と一如となり神に接近することが出來るものであると云ふ事が明かに解つて始めて眞の謙遜が生じ眞の自重が起る。世には自分が自分をツマラヌ者と思ふ人ほど憐むべき悲慘な者はない。諸君は彼の催眠術なるものを知るであらう。催眠術に罹つて居る人に向つて汝は犬であると言へば其の人は直に話をすることが出來ない。汝は壯士であると言へば腕をまくり、先生になつたと言へば字が上手に書け、一年生になつたと敎ふれば字が下手になる。人の自重自信といふものは此の通りである。日本人て母たる人は是れまで多く信仰がない。其の兒童育英の方法は實に寒心すべきものがある。例へば兒供が將に眠りに就かんとして居るとき「正坊は馬鹿野郞

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

馬鹿野郎馬鹿野郎やい」と云ふ調子で暗示を與へて居る。人は醒めて居る時は抵抗力があるが其の將に眠らんとする時は至つて鮮ない。此の時に當つて右の如き暗示を與へるのであるから正坊は遂に馬鹿野郎になり了せざるを得ないのである。

余輩思ふに日本從來の婦人は催眠術に罹けられて居たものである。今日の婦人と雖も全く醒めたりと云ふ事は出來ぬ。汝は罪業の塊なり、汝は他人の前に出た時は語るべからず、汝はあくまでもツマラヌ者なりと云ふが如き暗示は意識の底に染み込むまで連發せられたものである。余輩は諸君が大に發心する所があつて此の眠りより覺醒し確き信念の上に立つて其の教育を完ふせられむことを切望する次第である。

明治の女子の愛

田川大吉郎

（青山女學院創立三十五年紀念講演會に於ける講演の筆記也未だ校閲を經ず）

諸君、だん／＼講演を聽いて居ると、腕をまくり君僕と云ふが如き漢語を使ふ壯女、牛、馬、犬、土塊の如き人と見えざる女子があるとのこと、口惜くもあり、また悲しい事でもある。夜も更けて寒さが酷しくなつたため私は其の恐ろしい講演を充分聽き取ることが出來なかつたかも知れないが、武士の子は腹が空つても饑うないと云ふから私も痩我慢をして寒いと云はぬ、諸君も亦寒いと言はず退屈を忍んで暫時私の講演に耳を貸されんことを望む。

私が話したきことは此の學校が教育の生命として基督教を標榜して居ることとである。先づ基督教に關する私の所感の一を述べんに、聖書の中に、地に泰平を出さん爲に我來れりと意なかれ泰平を出さんとに非ず刄を出さん爲に來れりと云ふ教がある。基督の世に來れるは地に刄を出さんが爲であると云ふ聖書の教は今も矢張り基督教の生命である。此の學校は基督教によつて立つて居るのであるから此の言葉の精神を體得して居ることと思ふ。所で諸君が實際の生活に此の教を如何に適用せんとして居らるるか、私は此の事を切に聞きたいのである。此の教を素直に遵奉するならば少くとも現在の倫理道德に對して反抗の態度を取るの止むを得ざることであることは諸君の異存を挿まぬ所と信ずる。

私は伊藤公の葬式に臨席した。道の兩側には多くの男子と女子があつた。然るに式場と定められたる公園の中庭には見渡たすかぎり男子ばかりである。勿論二三の婦人をも見受けぬでもなかつたが男子と比較して實に言ふに足らないのである私は此の有樣を見て日本の社會に婦人無しと認めた。伊藤公の生前に公と交りを結んだ婦人は少くない。然るに其の葬式に於て家の男の代表者は會して居るが女の代表者は來て居ない。此が日本の現在の社會狀態である。二三人しか見えなかつた日本婦人の間には西洋の婦人は相應に見えた。西洋の男子が五十名あつたならば婦人も三十名位はあつたと思ふ。西洋人は夫婦共に會葬するが日本人は左樣でな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い。僅かばかりの交りを有する西洋婦人の伊藤公を弔ふ精神が、厚く交つた日本婦人の伊藤公を弔ふ精神よりも優つて居つたのであらふが。私はあながち左樣でないと思ふ。又私は不幸にして誰々が伊藤公の夫人に弔詞を送られたかと云ふ事を知るものでない。曾てゴルドン將軍の傳を讀みしに、彼が蠻地に於て死するや英國女皇は懇篤なる弔詞を彼の姉なる人に送られしことを記憶す。私は其を讀んでしばし感に打たれた。常より女皇の愛情の厚きを聞かぬてはなかつたが、ゴルドン將軍の傳を讀んで今更らの如く彼女の愛情深きを感じたのである。之は十四五年前のことであるが今日伊藤公の死を悲しむべき理由はゴルドン將軍の其れと優劣なしと思ふ。然るに世人が公の夫人に對する同情の厚きことを聞かない。地に泰平を出さん爲に我來れりと意なかれ泰平を出さんとに非ず刀を出さん爲に來れり云々、私は諸君が刄を出されんことを望む、諸君が發憤せられんことを望む。諸君が奮つて自から出陣して現今の風俗と戰はなければ何時までも斯の如くして行くのである。

今一の事實を語らんに、先年東京帝國大學の有名なる博士敎授に或る淑女が嫁いだが其の後不幸にして彼女は不得要領なる口實の下に其の家を逐ひ出さるゝに至つたことは諸君が今も猶ほ記憶して居らるゝことゝ思ふ。日本の婦人が如何に意氣地なしとは云へ此の慘酷なる取扱ひを受けたるを見たる以上、之を他人事と思はず女性全體の耻辱とし、かゝる仕打ちを敢てしたる者を女性全體の仇として誰一人として其處に嫁する女子はあるまい、と私は私に考へて居つた次第である。所が一ケ月立つか立たざるに其處に嫁いだ女子があつた。然かも其の女子は新聞紙の報ずる所に據ると高等の敎育を受けた人である。私は此を聞いて實際口惜しく感じた。私てさへ斯く思ふものを、同性なる女が、然かも高等の敎育ある女が我から進んで嫁ぐと云ふ、かゝる女を出す日本の現在の女子敎育は駄目であると思ふ。今日の風俗では、たとへ其の人物は如何あらうとも名聲ある博士に嫁ぐのは女子一般の願ふ所である。基督が地に泰平を出さん爲に我來れりと意ふなかれ泰平を出さんとに非ず刄を出さん爲に來れりと言はれしは此處だと思ふ。斯の如き見識なき卑しむべき風俗を打破するのは實に諸君の義務責任であると信ずる。以上述べたる所は私の講演の前提である。

扨て是より明治の女子の愛に就て聊か述べて見たい。今より三十五年前此の學校に敎育を受けた方々は既にお婆さんに成つて居らるゝてあらふ。三十年を經れば諸君も亦お婆さんとならるゝのである。故に諸君に取りてはお母さんとなりお婆さんとなることは何うせ免れないことである。然れば今私か玆に母の子供に對する愛に關して一場の講話を爲すことは無理ならぬことである。

私は母の子供に對する愛が從來と變つて來なければならぬと思ふ。從來の母の愛には溫情が乏しかつた、愛に標準がなく規律秩序が無かつたと思ふ。例へば嬰兒を育つるに、鳴きさへすれば乳を與へる。分量を計らず時を定めず兒供の腹の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

狀態を考へずしてたゞ與へるのである。又冷たい空氣に當つれば感冒に罹ると云ふて無闇に厚着をさして子供の皮膚の鍛錬と云ふことを忽はぬ。愛する精神は實に美しいのであるが愛する道を誤つて居る。此を一言以て云ふならば祖母さんの愛である。茲に小學校に行き始めた位の子供かありとせんに兒供の一切の道具を子供自身で始末して居る家が何の位あるであらうか。或る家のお母樣は帽子から傘から履物まで親ら取つて渡して居らるゝ。斯の如き子供の仕付方は子供に獨立の氣象を鼓吹し秩序ある生活を習はしむるの方法であるだらふか。かゝる養育の爲に我等の子供の精神と肉體とが損をして居ることは夥しいものであると思ふ。

曾て横濱にある友人よりの音信の端に居留地に居る西洋人の子供を育つる仕方が書いて來たことがある。其の手紙によると西洋人が日本人の兒守りを雇ふたとき其の兒守りに命ずる所は第一日本の子供と共に遊ばしむるなといふことてある。日本の兒供は間食をする。間食をする子供と交らすときは自然間食を爲るやうになるから之を禁じたのてある。第二に命じたる事は子供が倒れても起してやるなと云ふことてある。守りせられて居る子供は少さいのてある、が走け回る位てあれば他人が起して遣らないても獨りて起き上ることが出來るのてある。私は之を聞いて感服したとゝもに羨ましく思ふた。西洋人の風習が悉く日本人の其れに優つて居るとは思はぬが此の二つの心掛けを以て子供を養育して居る點に於ては確かに偉いと思ふ。日本の家庭ては、若し兒守りが兒供の倒れたのを見て之を起して遣らなかつたならば直ぐ解雇してしまう位てあらふ。私共は斯く爲すことが子供を愛する所以てあると思ふて居る。以上は一例を擧げたまでてあるが要するに私の願ふ所は明治の婦人の愛が從來の婦人の愛と違つて來らんことてある。地に叉を出して從來の風習を打破せられんことてある。私は子供に獨立の精神を吹き込んてもらいたい。規律あり秩序ある生治を教へてもらいたい。明治以前の婦人は衞生の事をよく知らなかつたのてあるから致し方もないが明治後の婦人は子供の將來の健康を慮ふて忍び難きことも忍んて一貫したる主義方針に依つて子供を養育せられんことを望む。今日は世界に對して健康及び氣風の競爭をせなければならぬ時てある。昔スパルタ人は其の兒を戰陣に送るとき、汝若し戰死せずば盾に乘つて歸れと言ふたそうてある。斯の如き氣風は獨りスパルタ人に限らない。我等の祖先も之と等しき氣風があつた。否今も尙ほ存して居る。此の氣風を今後何時までも維持したきものてある。此は戰爭の時の事てあるが私は諸君が平時の育英に於て之を實行してもらいたい。寢る時起る時食ふ時散歩する時又倒れた時常に忍耐克己の愛を以て敎養の事に當られんことを望む。今日女子を敎育する目的は幾つもあるのてあらふが其の子供に對する愛が右の如く成つて來ないならば如何なる教育も所詮駄目てあると思ふ。

終りに諸君に對する私の今一の希望を述べたい。聖書に耶蘇がマリヤとマルタの家に行かれた一條の物語りがある。久

し振りの御來臨と云ふのでマルタは臺所で御馳走の仕度に急がしい。マリヤは耶蘇の傍らに侍つて親しき御物語りに耳を傾けて居る。マルタはマリヤの此の振舞を無愛相と見たてもあらふか耶蘇に忠告せんことを願ふた。然るに耶蘇は無くて叶はぬものは唯だ一なりと云ふ尊き敎の下にマルタの願を斥けられた。無くて叶はぬものはたゞ一である。私共が友人を訪ぬると男の主人は對談するが奥さんは臺所でドタバタして居らるる。奥さんも一所に出て居らるるならば客の喜びは之に越したことは無いのである。耶蘇が我等の家庭に訪づれ給ふときマルタの如く御叱りを受くるのはマルタばかりではないと思ふ。今日幾人のマルタが居るかわからぬ。我等の愛はただ飮食の饗應によつて表はすのみてはいけない。耶蘇の傍に侍つて居たマリヤは腕をまくり君僕と云ふやうな漢語を使ふガサツな亂暴な壯士の如き女てはなかつた。客の前に出て樂しく談笑することと思を品よく立居振舞を高尙にすることとは互に相容れざるものてはない。基督敎主義の下に敎育を受くる者はマリヤの如き人と成らねばならぬ。無くて叶はぬものはたゞ一である。以上述べ來りたる所を實行するのは甚だ難かしきやうなれども若し信仰を以て之を爲すならば左程難きことてはないと思ふ。私は諸君が信仰によつて明治以前の婦人の愛と全く異つたる愛を以て萬事を處理せられんことを希望する。

聖書の硏究

ピリピ書解釋（四）

改譯及び註解

第二章一 故に果してキリストに在る勸めあり、愛の勵しあり、靈の交あり、慈悲と憐あらば、二 汝等心を同じくし、愛を同じくし、靈を一にし、念ふことを一にして我が喜を滿たしめよ。

前章の終に於けるパウロの調子は將軍が兵士に號令する勢あり、此の章に至り語調全く改まりて慈母が其の子を誡むる如き態あり。若し聊にても斯く〳〵の事あらばと云ふなり。勸めと譯しある原語は英譯には慰めと譯しあれども、他の解釋に據りて斯く譯せり。キリストに在りてふ一事にして果して汝等を勸むるに足らばと云ふ意なり◎愛の勵　とは愛によりて人の心に生る歡喜慰勵を云ふ。果してその情を知るならばと云ふ意なり。靈の交とは聖靈によりて相互に結ばるることを云ふにあらず、聖靈と我との交通を云ふ◎慈悲と憐　慈悲は憐憫の心の宿る處なり、憐は感情そのものを指す。いづれも己より卑きもの弱きものの苦めるものに對する情を云ふ◎心を同じくし　心とは精神の態度を云ふ先づ總合して心を云ひ次に三に分てり◎愛を同じくし　と云は愛するものを同じ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くするを云ふ◎靈を一にしてとは感情の一致和合するを云ひ念ふ所を一にしてとは思想の一致を云ふ◎我が喜を滿たすものよ 汝等は今までも我が喜を與へたり。今更に我が喜びの杯を滿たして溢るゝに至らしめよと云ふ意なり

三 何事をも黨爭或は虛榮よりなすことなかれ、謙りたる心を以て互に人を己に優れりとせよ。 四 汝等各己の事にのみ目を着くることなく人の事にも目を着くべし。

人を己より優れりとすることは强て爲さずとも、よく人を識り其の長所を認識するを得ば、必ず己よりも優れる點を發見すべし。又誰しも己之を有せず他人之も有する所のものは美しく大きく見ゆるは人情なり。神は互に人を己に優れりと思ひ得べき力を人の心に植えつけたまへり。己の事にのみ目を着くるは不健全にして狹き心の特徴なり、健なる靈魂は自己の事を忘れ人の事に注意し人の爲に盡すを好めり。アリス、フリイン、パーマー夫人は人を感化し人を指導する力の大なる人なりしが、如何にして斯の如き伎倆を有し得べきやと問はれしに答へて、年少き時學びたる一人の敎師伎倆の必要を說き之を得べき最も良き道は我等の接觸する人の事に一層深く注意するに在りと云へる言を記憶することを語りたり。パウロの言の註解とするに足れり。

五 キリスト・イエスに有りし心汝等にも亦有らしめよ。 六 彼は神の狀にてよりしかど神と等しくあることを固守すべきことゝなさず、七 己を虛くし僕の狀を取りて人の如くなり、人の如き樣にて見られ、八 己卑をくし、死に至るまで、然り十字架の死に至るまで、從順なるものとなれり。

パウロは謙遜を說き同情を說き來りて思自からキリストの絕大なる謙遜と同情に及ばざるを得ず、乃ち忽然として深遠なるインカーネーションの秘義に說き入りたり。基督敎の敎理と實際生活とは如何に親密なる關係あるか。斯る處より悟られ得べし◎神の狀 こゝに狀と譯しある語は如何なる譯字を用ふべきか知らざれども、其の者の本質と違はざる表相を云ふ。たゞ偶然に帶有する狀態と異なり。ベルナルド・ブイスは神の榮光、即ち神の靈なる性質に適へる表現の形を神の狀と云へりと解せり◎固守すべきことゝなさず 手より離すまじとて之に執着する如きことゝなきことを云ふ◎己を虛くし 虛しくしの原語は「ケノオー」なるが故に神學に於ける「ケノオシス」說なる術語之より出てたり。キリストが先在の狀態より人となりたまふ時神として有せる榮と權威と屬性或る部分を脫して來りたりと說くなり。パウロは斯く神學的に考へたるにあらざるべきも指す所は此にあるべし◎僕の狀 人の僕のことなるか、神の僕のことなるか。神の僕の意なりと解する學者なり（マイヤ、エリコツト）神と等しかりしものが神に仕へ神に服事する地位を占むることゝ云ふ。然れどもヴヰンセントの如きは斯限らず人の僕たることをも含むと解せり（馬太二十〇二

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十七、二十八、馬可十〇四十四、四十五、路加十二〇三十七、約十三〇一より五、十三より十七）◎人の如くなりとは人らしくなれるもの意なり。されどもウキンセントは、似たるにて同じきとにあらずと云へり◎人の如き様にて見られたり　此處に様と譯しあるは上に狀と譯したる語とは異なり。後者は本質に關係すれども前者は偶然に有する狀態を云ふ。

九　此故に神は高く彼を揚げて總ての名に超ゆる名を彼に賜へり、十　是れ天に在り、地に在り地の下に在るすべての者イエスの名に於て膝を屈め、十一　總ての舌は父なる神に榮光を歸してイエス・キリストは主なりと告白せんがためなり。

此の故に　イエスの謙卑と犧牲の結果として　と云ふ意なり。カルヴキン等は、報賞として斯くせられたりと云ふ思想を好まず別に說き去らんとしたれども其の必要なし。父なる神イエスの功績に報ふるに此の如き榮を以てせりとの思想は五旬節に於けるペテロの說敎をはじめ弟子の多く說ける所なり。されどイエス・キリスト神にして人となりしものならんには、固より無限の榮光を有す。神が今更之を揚ぐるとは如何なる事なるやと問ふものあらん。これ餘り物質的に見たるなり。ヴキンセント曰く「インカルネーションに於ける勝利によりて獲たる主たる位は固より有せる主たる位とは區別すべし。自己を棄て得たる主の地位、人に仕へて得たる主宰權なればなり◎すべての名に超ゆる名とは如何なる名なるや。種々の說あり。イエス・キリストてふ名なりと云ふ說（マイヤ・ドヴキッテ・ヴキンセント）と主と云ふ名なりと云ふ說（クレッパー、リブリシウス、ヴキス）と最も力あり。ライトフウトはこれは格別なる名にあらず、尊榮威嚴を附與するの意なりと解す◎天に在る者は天使なり、地の下に在る者は陰府にある者を云ふ◎イエスの名に於て膝を屈めしめ　イザヤ書四十五〇二十三を參照すべし。

靜思の友

祈禱につきて

祈禱の終りに「キリストの名によりて」と云ふことを加へますが、其の意味は何であるか、解つて居ない人もあるやうてある。或る人はキリストの仲媒もしくは取り成しによつて祈ることと思ふて居るやうてすが、兎に角彼の言はさう云ふ意味てはなく、イエスの御旨を成しイエスの業に與る精神を以て祈ることと解するのが正しいやうてある。御國を來らせたまへ御心の天に成る如く地にも成させたまへと祈る精神が祈りに籠つて居なければイエスの名に由りて祈る祈りにはならない。

祈りをするには力めて精神を引き擧げた處がなくてはならぬ。精神の高まつて居る時には、言葉少く祈つても多くの事を祈つたやうに感ぜらるゝが、心の引き立つて居ない時分に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は長く祈つてもまだ祈りが殘つて居るやうな心地がする。イエスが弟子に敎へられた祈を讀むに至て簡短であるが實に大なる祈りである。山の頂のみ見えて大きな山脈が下に蟠まつて居る如く感ずる。

祈には盡く願であるを要せぬ。祈りは神と語ることとてある。故に感謝もあり、懺悔もあり、祈願もあり、至て正直で眞實であるを偸ぶる強ひて之れを願の形にする必要はないと思ふ。ヨハネ傳第十七章にあるイエスの祈りの如きそれである。

祈りの畠はしばらく手を入れぬと直に草が生えて狹くなる。折々は心を落ち着けて寛くり神の前に出で行き屆いた祈りする必要がある。それから祈りのカアドのやうなものをこしらへて何曜日には誰の爲め何事の爲に祈ると云ふやうに日割をこしらへて置く方祈りが偏すると云ふことなく又いつの間にか之がために祈ることを忘るるやうなことになるを防ぐことができる。

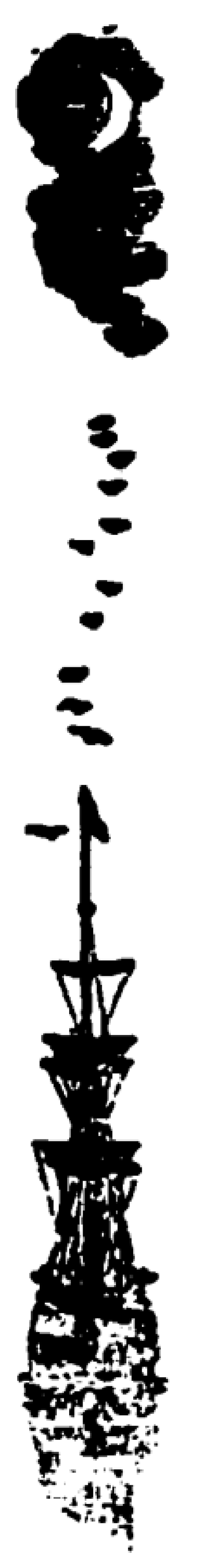
祈りをしやうとして居るとき故障ができてすることができぬことがあるが、其の故障が去つた時再び祈ることをしなくてやめることが多い。これは良くない、祈りにも意志の力を要する。イエスは祈りをなさるる爲山に退いた處へ群集が尾いて來て祈ることが出來なかつた。彼は人を憐れんで麪包の奇跡を行はれた。しかし人々が去つた後では初の精神に復つて獨り祈りに時を移された。これは大に學ぶべき所である。

祈りの時を得やうとせば朝早く起きるに越したことはない。今頃五時に起きれば四邊はまだ靜である。燈を點して一日の最初の時を神に捧げるならば一日のうち幸ひに心淸く感ぜらるる。それから夕暮日の沒る頃も亦良く用ひれば靈的の感興の深い時刻である。

祈りの言葉も注意せねばならぬ。出まかせては良くない。又婦人の祈りは矢張女らしい言葉を用ひた方が美はしく聞こえる。

又祈りは思ふことと伴はなければならぬ。一日の中十分でも二十分でも心を落ち着けてしみ〳〵祈るならば言ひがたき祝福を感ずるのみならず、又品性もだん〳〵立派になるに違ひない。

良き祈りに要する箇條は、イエスの敎によると第一は謙遜謹愼の態度である。パリサイ人よりも稅吏の祈りが受けられたのは之が爲であつた（路十八〇九ノ十四）。又信じて祈らねばならぬ。（馬可十一〇二十四）。そうして熱切に力を入れてせねばならぬ（路十八〇一—七、十一〇五—八）。又責任を帶びた祈りであるを要する。神に赦していただかうと云ふには已れ先づ人を赦さねばならぬ。この力を盡して神の助を願ふべきである。それから初の話に復つてイエスの名に由りて祈ると云ふことも必要なる個條である。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

文苑

近し

江村秋子

はる／＼と武藏野の道盡きて、
美しき秋の山近し。
木の葉散る岡の彼方、
川流れて人家路に歸る。

故國の空すでに近し。
四千哩の航程
今宵盡きんとす。
一船の客眠成らず。

近してふ言葉に魔力あり。
源遠く末長き
生命我が身に近き時、
忘れかたなき香りあり。

年暮れなんとして憂思多し。
されども神よ、日に月に
我が一生の歴史をば
神に近づく旅路たらしめよ。

史傳

望なき人の友メレイ・リイト（下）

白井胤祿

▲之より先きリイドは紐育から醫者の紹介で、ロンドンに赴き名高い專門醫の診察を受けたことがある。其のとき英國で親しく交り意氣相投ずるに至つた一人の米國婦人がある。其の婦人がリイドの志を聞いたときの感想を書いて居るものを見れば、一層リイドの心持や、勇しい信仰の有樣を知ることが出來る。彼がリイドの志を始めて聞いたのは、一緒に巴里に行つたときのことである。曰く「私の生きて居る限り、當時の光景を寫した畫は、私の記憶の壁の上に懸けられてあるであらう。卓上の蠟燭は開かれた聖書の側に覺束ない光を照らして居る。此の聖書こそ實に彼が日々慰めを受くる諸々の書物の中の書物です。外は大いなる巴里が夜の衣を脫いで光と音樂と酒との晝に移りかけて居る時、內にはメリイ・リイドが穩かな聲で、只其の母の心を汲み、又將來の憂を思ふて戰慄しつゝ、己が深い悲みの秘密を物語つて居たのである。波立つた私の胸が始めてリイドの心中を推察し得たとき、私は直ちに其の將來の事など思ひ浮べ、慘ましい俤が目の前に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

現はれ、之を打ち消さうと思つて私の面を蔽ひ、劇しい苦痛を覺えて我知らず「いゝえ、然うじやありますまい。もう然んな話をして下さるな」と叫んだ。やがて心の落ち着いた時、私は凡ての基督信者が貴女の病の平癒する爲めに心を協せて祈るでせうと云ひますと、彼は只だ「私はまだ何所でも之が平癒るといふ保證を得ませんでした。多分私は平癒りますよりも、此の方が却つて一層能く神樣に事へることが出來るでせう」と答へたのであつた」と。リイドは病氣に罹つたことが却つて一層立派に神に事へ得られると信じて居たのである。實に彼は病苦によりて聖別せられたのである。

▲『ヒマラヤ山の麓、美はしきチャンダグの高地』とはリイドの手紙に己が住居の有樣を寫生した句である。彼は此所を以て己が使命を行ふべき地と定めた。其の四圍の風光の明媚なことは朝な夕なに彼の心細い境涯を慰めことである。其の寫生の一節に曰く『僅か二三日の旅路で達せらるゝと見ゆる北の山には永遠に消えない雪を戴き、其の雄大にして崇高なる光景は筆紙の及ぶ所でありません。如何にも淸く輝いて、平和な其の姿の床しさ。朝暾夕暉は永遠の都の目に見ゆる礎にもやと想像せらるゝばかり光榮に充ちて居る。是れは今語うと思つて居る私の住む山々の景色です。其の周圍にはシオアと呼ばれた懷かしい谷が、宛がら莊儼な畵を入れる爲めに造られた重々しい立派な額緣のやうに橫はつて居る。私の家は其の谷の西の境、即ち額緣の左側に當つて居る高地に立つて居て、また一幅の畵です。殆んど六方哩もある豐富で美しい谷が私の高く懷かしい隱家の下、千數百尺の所に擴つて、林に圍まれ、米麥其の他の穀物の綠の田畑の開けた多くの村里が散在して居る。小河が其の谷を流れて之より貫き來る風の涼しさ。さて之を區別して居る丘の頂で最に高く、其の中心と思はるゝ所に美以敎會の家屋が建つて居る。』

▲リイドは癩病者の苦痛を慰めるに足ると思ふ醫藥は何んでも喜んで與へる。然かし自身は決して醫藥を用ひない。其れにも係らず彼の病勢は甚だしく進まず、健康なる宣敎師も及び難いほどの成功をなし、辛うじて三十七八人を容るゝばかりの小屋懸け同樣な收容所は、數年の後僅少の土人の助力の外は殆んど獨力て、八十五人乃至九十人を容れて優に之を看護し得るの設備を爲すに至つたことである。彼が確實な判斷力と事務的の才能とを有する婦人であつたことは之を見ても解る。彼は實際に行はれぬ夢を追ふやうな性質でない。然るに彼が醫藥を決して用ひぬと云ふのは何故であらう。其れは己が病は確かに神の御旨であると信ずるところから、神の手より受け取つたものであれば只だ神の手に委ねて進むのみだと考へたらしい。其の書翰の一節に曰く『此の山地に着して後、六ケ月間は病著しく進み候。然りながら私は十分神の御恩惠を知り候。永遠の御手常に私を支へ護り、耶蘇の御愛心に於て私の心は慰めと喜びとを覺え候。……私は神の愛と智慧と力の活動しつゝあるを確め候。斯の如き御愛心は語るに言なく、只神は私をして嘆息にあらず、歌を以て御旨の僅に爲させたまへと云ひ得るやう取り計られ候。只だ神

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の意志に從ふのみに候。神が御旨を私に爲し遂げたまふ最後の日も何日か來るべく、或は明日にも知れざることに候。」

▲彼はまたラスキンの語を引いて居る。『我等の一生の音樂の中には、彼所此所に休みありて調べ途切るゝことあり。然るに我等は愚かにも之をもて音樂の終りたるが如く考ふることとあり。神は强ひて閑散なる時を與へ、疾病若くは失敗の時を來し、我等の生涯の讃美歌をして俄かに中止せしめらる。之が爲めに我等は口を緘み、曾て造物主の淸聽に達せし音樂中より我等の聲を取り除かれしものゝ如く悲しむ。……神は目的なくして我等の生涯の樂譜を書かれず。其の調べを學び、休息の場合に臨みて周章狼狽せざるは我等の義務なり。我等若し仰ぎ見なば、神は我等の爲めに音樂の時間を指揮せらるゝを見るべし』と。之を讀めばリイドの心懸が好く解る。彼は病に罹つたことを以て決して音樂の終りを告げたとは考へない。更に其の後に一層美妙なる調べが出ることを信じて居たのである。

▲事業を經營して行く上について色々の困難が起つた。然かし彼は勇しく奮鬪した。其の手紙に左の如きものがある。『エホバは讃すべきかな。我が祈りの聲を聲きたまひたり。……わが心之に依賴みたれば我たすけを得たり。かるが故にわが心いたく歡ぶ(詩二十八篇六、七)……神の懷しき御手もて與へたまひし苦痛の我が心と身に起り候とき、私の此の憐むべき弱き器にても神が聖旨を行ひ居たまふことを知り滿足致し候。又私は一つの不親切なる事にても神の許しなくば之を云ひ、また行はるゝものにあらずと存じ相慰め候。如何に成り行き候とも私の生涯はすべて神の御手の裡にこれあり候』。彼の保護しつゝある癩病者の中からバプテスマを受くるものが年を追ふて續々起り、道に進む有樣も賴母しいので大いに力を得たことである。然かし一方には肉體のみならず精神上に幾多の癩病者があて惡むべき罪の力が院內に跋扈するといふ悲しむべき出來事を見ねばならなかつたのである。リイドは信仰によりて之と戰つた。『私は凡ての事に於て心の中に大いなる安息と平和がある。神の御導きの手と祝福の微笑とは、此の年を讃美を感謝とに滿ちて送ることが出來ると信ずるほど明かに現はれて居る』とは其の戰ひによりて得たる實驗であつた。

▲眞に人の靈魂を託せられて其の消長を我がものゝ如くに心配するは、傳道者の人知れぬ苦心で、彼等は之が爲めに夜を徹して祈り、常に念頭に重荷を擔へるやうに感ずることてある。リイドの手紙の中にも『私は此の二週間ばかりは殆んど疲れ果てたやうな心持がします。私 の心は私 の注意を賴りにして居る人々の爲めに非常な重荷を負ふて居ます。私は之を感謝して居ますけれど、近頃は殊に心に悲しみを覺え絕えず此等の罪に眼くらめる人々の爲めに祈り、獨り彼等を淸むるの力を有したまふ神の許に導かんことを努めて居ます。何卒此處に聖靈の活ける力の現はるゝやう祈つて下さい。かくて此の力によりて神に生き、罪に死するものの多く起らんことを望みます』とある。然かし彼の傳道によりて多

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くのものは基督を信ずるに至つた。『チャンタグ高地に於ける愛する人民の心靈上の生活に就きては、人の心が新になるを見て喜びと滿足とを覺え候。聖靈の感化は人の心に貫徹し、之を敎化し、且つ啓發し、爲我的の思想に滿たされ易き心を慰められ候』と云つて居る。

▲新年の日記に『凡ての祝福の基なる神を讃めよとは、此の新しき年の曉私が目醒めるとともに浮びし第一の思想です。之に次いて我確かに汝と共に在るべしとの貴き約束を思ひ出てました。私は心と生命とをもて絶えず神を讃めつゝ此年を送りませう。私は樂器に向ひ之を奏て、且つ歌ひました。

來れ、我等をして新しき旅路に上らしめよ。

神の賢こき意志は我等をして、

望みの忍耐と愛の勞役とにより、

喜ばしく成就せしめ、且つ力を増させたまはん』

と記した一節がある。感謝と讃美と奉仕とは聖徒の德てある。

▲其の後リイドの健康は不思議に恢復した。然かし彼は矢張り其の病が體内に滯つて居ることを認め、斯く健康に復したのは一時神が多くの基督者の同情の祈りに答へて病の力を壓へて居られるのであると云つて居る。是れは數年前のことで不幸にして其の後の消息を聞くとを得ぬから何うなつたか解らぬ。兎に角彼の生涯は外國宣敎師列傳に記さるべき美しきものゝ一つてある。余は最後に趣味深き彼の手紙の一節を紹介しやう。『私は今日美はしき聖書の句を發見致し候。是れは私の身に取り、過去に於ても、現在に於ても證據立てられ更に又將來に於ても然るべくと存じ候間之を引照いたし候。「エホバは天地を震ひ動かしたまふ。されどまた其の民の避所、イスラエルの子孫の城となりたまはん」（約耳三の十六）是れは眞に奧義に候。神は私共の避所また暴風雨の時の港、神の目のあたりに在すことは私共の救ひに御座候。げに神は私共の嘆きを負ひ、悲しみを去り、罪の重荷よりも更に重きものを負はせたまふことを望まれず候。………私は驚くばかり健康を增させ給ふが故に最も謙りて生命と健康と平和の源泉なる我等の父なる神及び救主耶蘇基督を讃美し且つ感謝し候。』（をはり）

女子青年界

女子青年會寄宿舍新築成る

小石川水道町に此程新築されたる東京基督敎女子青年會第二寄宿舍落成式は廿三日午後二時同所に開催されたり。津田梅子女史病氣の爲め新渡戸博士が司會となりて開會の辭を述べ次に文部大臣の祝辭（黑澤參事官代讀）田川大吉郎安井哲子女史等の演說あり四時半會を閉ぢたるが當日參會せる重なる貴婦人は三宮男夫人米國大使館一等書記官夫人の外百五十名以上なりし因に本宿舍は各室悉く七疊半に割り一室に三人宛を入れる樣にし押入も一間半を三に仕切りて其一を一人に充てゝ而も押入に抽斗を付けたるは好き思付なり

青山女學院創立三十五年紀念會

青山女學院は明治八年女子敎育の目的を以て渡朝せる米國メソヂスト敎會宣敎師ミス、スクメイカアの創立する所なり。最初は地所も家屋もなく、津田仙氏の盡力に依り、辛うじて同氏の隣家なる某寺院の空室を借り數名の生徒を收容して敎授を開始したるなり。而かも生徒の大部分は津田氏の家族にて、外來の者は一二名に過ぎざりき。此處に居ること二年、漸く校舍の狹隘を感ずるに至り、築地十三番に移轉し、爾來事業は年を追ふて進步し、遂に明治二十一年現在の地に移轉擴張せるなりといふ。現校長はミス、ルヰスにて、現在生徒は英文專修科、高等女學科、手藝科を合せ四百名の多きに達する由なるが、去る十日青山學院弘道館にて創立第三十五年紀念說敎あり、小畑久五郎氏の司會にて、本多庸一氏は「女訓數則」と題して說敎せられ鵜崎庚午郎氏の祝禱を以て閉會したり。來會者は女學院生徒三百名、外に男女の校友百七八十名なりき。又十三日には運動會を催ほし、十五日の夜は青山學院弘道館に於て女子敎育講演會あり、安井哲子、麻生正藏、田川大吉郎、高島平三郎諸氏の講演あり、六日午後二時同所にて紀念會を執行し米國大使ォブライエン氏などの祝詞ありて盛會なりき。十七日の夜は文學會を催ほしたり。

大阪ウヰルミナ女學校靑年會

九月は半ば休日にして記すべき事項少なければ同十月分と併せて報告すべし

九月二十七日第二回役員事務會を開く、委員補缺を行ひ、各委員會々開日を規定せり。

風紀委員會　木曜日　祈禱委員會　火曜日

訪問委員會　火曜日　傳道委員會　金曜日

音樂委員慈善委員會は必要に應じて隨時開催す。

且つ各級相互の親睦を計ることを議決せり。委員補缺をなし、當會十月二十七日第三回役員事務會を開く。委員長とし深井姉之れを補く。九月二十二日夏期講習會報告會を開く當會代表出席者高島光子山本靜江子の講演報告あり會員一同を益する事大なり十月二十日大坂東敎會牧師川添氏に講演を請ふ、寓話「ゴンデンタッチ」を冒頭に黃金に迷ひ東奔西走する世の老若男女を憫み彼等が生命の危機に迫れるを知らざるを說き最後に黃金は凡ての物に非ず其志は如何に輝くとも倘ほ固く冷くして生命なきものなるを記憶し其誘惑に陷らぬ覺悟なかるべからずと誡めらる

其他聯合及び各級の祈禱會各々二回催さる。

小石川傳道女學校靑年會

夏休みの爲め長く閉ざされたる女子靑年會は十月一日金曜日を始めとし每週午後三時半より例會を開く九月には種々學校の都合に依り役員會の外は休會す。

十月　集會の種數は　講話會　三回　役員會　一回　經驗會一回　集會者　百五名　內客員　十五名　役員　四名

講話會一回　平均集會者二十五名　客員　三名

九月中三名の新入會員あり。

九月開催の役員會にて二事を議定す、一は每週種々なる集會を催すと同時に個人傳道に努むる事即ち每金曜日の例會開會前に出席せる人々に親しく接して神の福音を傳ふる事、二は每月最初の會に於て己れの受けたる惠をあかしする事、證はキリストを愛する者の信仰の告白なり、これに依りて神の御名が益々崇められ、また信仰弱き者の信仰を扶くる事あらば幸甚なり。

秋冷にさそはれて會員一同ますます勇氣を得神の福音の愈々廣く傳へられむことを祈りつゝ熱心に働き居れり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

The Young Womens Christian Association Union of Japan

Mrs. H. Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss A. G. Lewis, Recording Secretary
Mrs. G. M. Fisher, Treasurer
Miss Michi Kawai, Active Member World's Committee
Miss Sumi Miyagawa, Corresponding Member of the World's Student Christian Federation

Resident Members	Non-Resident Members
Miss A. B. West	Miss K. Tristram, Osaka
Dr. Tomo Inouye	Mrs. R. Araki, Osaka
Miss Hama Hirano	Miss N. B. Gaines, Hiroshima
Mrs. Koharu Nakajima	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss F. D. Denton, Kyoto
Miss Sarah Ellis	Miss Wynne Willson, Nogoya.
	Miss Charlotte De Forrest, Kobe.

Miss A. Caroline Macdonald, General Secretary
Miss M. L. Matthew, Tokyo Secretary

Headquarters :— 41 Sanbancho, Kojimachi, Tokyo

明治の女子

一、「明治の女子」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する機關雜誌也。

一、「明治の女子」は一年分郵税共金五拾錢一部郵税共金五錢とす。

一、日本基督教女子青年會は青年女子の衛生、社交、智識、靈性上の發達を計るための團體也。

一、日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

委員長　井深花子
副委員長　岡見恵子
記録書記　エ、ジー、ルイス
會計　フィシャー
萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子
萬國學生基督教同盟會委員　宮川すみ子

東京在住委員
エ、ビー、ウエスト　井上友子
平野濱子　鈴木歌子
中島小春　サラ、エリス

地方在住委員
大阪　ケー、ツリスツラム　京都　佐伯小糸
京都　デントン　名古屋　ウインウイルソン
廣島　エヌ、ジー、グインス　神戸　デフヲレスト
大阪　荒木幸子

日本女子基督教青年會幹事　エー、シー、マクドナルド
同副幹事　エム、エル、マシウ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治四十二年十一月十五日發行（毎月一回十五日發行）

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN

OF

JAPAN

Vol. VI. *November 1909.* *No. X.*

Editorials:—

Health and Purity.

Sermon:—

The Ethics of Jesus. Dr. Campbell Morgan.

Leading Articles:—

My Tour Abroad. S. Niwa.

Value of Religious Faith in Women's Education. H. Takashima.

Affection in the Modern Woman. D. Tagawa.

Bible Study:—

Philippians. (IV) E. Kashiwai.

Still Hour:—

Prayer.

Literary Article:—

Nearer and Nearer. (a Poem)

Biography:—

Mary Reed, the Friend of Lepers. T. Shirai.

Association Notes:—

（東京神田美土代町 三秀舍印行）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA